

なかよしきい

令和3年12月15日
北九州市立中井小学校
校長 東 由美

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

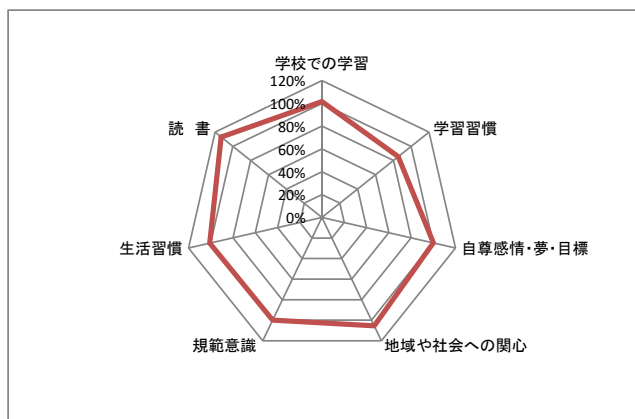
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指していることを申し添えます。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	記述式の問題の正答率は、全国平均とほぼ同程度か上回っている。文章全体の構成を捉えながら読んだり、書いたりすることがよくできている。しかし、漢字を正しく使う問題や、修飾語など言語についての知識技能を問う問題は、全国平均を下回っている。	上回っている
算数	「変化と関係」の領域は数量関係を正しく捉えて考察できており、正答率は全国平均を上回っている。また、「データの活用」の領域もデータを正しく読むことができている。正答率は全国平均を上回っている。「図形」の領域の正答率は、いずれも全国平均を下回っている。	同程度である

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 肯定的回答が全国平均を最も上回っている項目は、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」であった。持続可能な社会を築く意識が高まっている。反面、「将来の夢や目標を持っている」に対する肯定的な回答は全国平均をやや下回っている。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する肯定的な回答が、全国平均を大きく下回っている。家庭学習では、宿題のほかに自学を取り入れているが、主体的に取り組む児童と、そうでない児童との差が大きい。
- 学校での学習で、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的な回答が、全国平均より低く、他の項目より全国平均との差が大きい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

学習の中で、話し合い活動や表現活動(話す・書く)の取組を意識的に取り入れ、語彙力の向上につなげていく。また、教科書だけでなく、友達の様々な考えや関連資料など複数の情報に触れる機会を多く設定し、目的に応じて情報を総合的に判断していく力を育成していく。学習の最後には、次につながる振り返り時間を必ず確保するように学習展開を工夫する。また、漢字や計算などの基礎的な内容も朝学習の時間などを活用して繰り返し取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習においては、よい自学ノートの取組などを紹介したり、してきたことをしっかり評価したりすることで、より多くの児童が取り組めるようにしていきたい。また、各学年のキャリア教育を見直し、各学年段階に応じたつながりのあるカリキュラムづくりをしていく。児童が「なりたい自分」の具体像(目標)をもつことができるようにし、目的をもって主体的に学習に取り組んでいくことを価値付けていく。